

全国初の長射程ミサイル配備 真夜中の不意打ち配備に抗議

熊本支部

3月9日未明、熊本市の陸上自衛隊健康軍駐屯地に、住民にも知らせず、全国で初めて長射程ミサイルが配備されました。熊本支部事務局長の森川亜弥さんのレポートを紹介します。

仲間とかけつけた

3月8日夜、熊本市街地の真ん中にある自衛隊駐屯地に、「長



深夜に運びこまれたミサイル関連装備

射程ミサイルが運ばれてくる」との情報を聞き、急いでかけつけました。夜にもかかわらずロコミやSNSで情報を知った市民が県内外からかけつけ、会員も含め約150人が集まり、プラカードを掲げ抗議の声をあげました。



急ぎよの知らせにかけつけた会員たち

どの門から搬入されるかわかりません。私たち市民の監視と抗議が続き、そこへ日の丸を持った右翼が妨害に

来て騒然となりまして。多くの市民が国会前と同じようにペンラ

イトを持って抗議行動に加わりました。

深夜0時を回った頃、高速道路を使い運ばれたミサイルは、別のダミーのトラックまで出して市民をだまし討ちに、駐屯地内へ運び込まれました。みんなで車両に駆け寄り、動かしていきなさいと。

り、口々にミサイル反対！など叫びました。が、あつという間に門の中へ。涙がこぼれそ

うになり「抑止力」どころか攻撃の対象になってしまふ。これからも行動していきなさいと。

住民説明会も開かず

新婦人の会員も参加する「ストップ！長射程ミサイル・県民の会」は、県知事や市長に住民説明会を開くよう、再三申し入れてきました。しかし住民の声を無視し、説明会も予告もなしに、不意打ちの配備をおこなったのです。

地は市街地にあり、市民病院が隣接し、保育施設や小中高校などが集積する人口密集地。県庁からもわずか1・5キロの距離です。私たちは「怖いね」「行動しなくちゃ」と集会や知事、市長への要請行動に参加してきました。

「防衛省に直接、訴えたい」と切実な思いで、昨年12月3日の次世代国会行動に参加しました。「ここでは言えない」と逃げる防衛省に怒りが湧きました。知事も市長も「国防は国の専管事項」と無責任な対応を続けました。今回の搬入を知らなかつたと言っているのも疑わしいです。

夫の死後、私は悔しくて毎週金曜夜の脱原発を訴える首相官邸前デモ(首都圏反原発連合)によって9年間ほぼ毎週開かれた。には毎回のように参加した。東京地裁での福島原発の刑事裁判傍聴にも毎回参加した。

裁判傍聴で、原発事故は単なる自然災害によるものではないことが判つてきました。福島第一原発は、もともと35階あった高台の敷地を25階掘り下げて建てられた。また東京電力は2008年の時点で、地震調査研究推進本部が示した見解「福島県沖と茨城県沖でマグニチュード8クラスの津波地震が起きる可能性がある」から、最大15・7階の巨大津波が福島第一原発に到達するとの解析結果を得ていた。いったんは対策を取る方針となり、社員達はそのために奔走したが、対策費用が莫大になる

〈月1回〉



あの日から15年

③

浪江町民 門馬昌子

ことから、勝保元会長、武藤元副社長、武墨元副社長はこれを握りつぶした。多くの学者や現場の証人など、東京地裁は2019年9月19日、被告3人全員無罪の判決を言い渡した。これは別に株主が旧経営陣に対し損害賠償を求めた株主代表訴訟では、2022年に1審の東京地裁が賠償責任を認めて約13兆円超の賠償を命じたが、2審の東京高裁は昨年6月に一審判決を覆し、「巨大津波は予見不可」として旧経営陣の責任が否定されている。3人の責任を問うて有罪にしなければ、夫を含む犠牲者たちは浮かばれない。

反原発デモ、経営陣の責任問う裁判に

私はずつ病にだけはなるまいと思ひ、いろいろなことに参加して友人や仲間を作っていた。なかでも新婦人東京・北支部では、「東京で使っていた電気のせいで福島の子どもたちを大変な目に遭わせたから、せめて保養を」とコンサートや落語会などを開き、2泊3日の保養キャンプを2度も開催。また、私がガイドをしての被災地巡りバスツアーもおこなった。原発事故に無関心な人も少なくないなかで、新婦人の仲間たちの温かさに触れて感激した。

町へ出て対話

6日に支部がとりくんだ「女性の休日」スタンディングで出会った女性と対話になりました。「選択的夫婦別姓制度が実現しない政治に落胆していた。熊本でも行動している団体があつてうれしい」と。そしてミサイル配備についても対話することができました。

く、意思表示が難しい空気がありますが、熊本地震の時に助けてくれた自衛官のいのちも守りたい。支部のみんなと、「やはり日常的な対話しかないね」と。地元紙のアンケートに回答した女性の約7割が配備に反対との報道も。同じ思いの女性たちと出合えるよう、支部はさつそく町へ出てシール投票で対話にとりくんでいます。

転勤・転居される会員・読者のみなさんへ

新婦人は全国に班があり、転居先にも仲間がいます。移動のときは班、または支部に連絡し、転籍・転紙の手続きをお願いします。

主張

「自民党の圧勝が怖くてたまらない」「話せる仲間がほしい」「平和憲法を守りたい」と、新婦人と出会った女性たちの入会が続いています。各地で「身近に政治的な話をする友人がいない」と仲間を求めて入会。署名活動をしていただいた会員に声をかけた女性が、「誰かが動かないと社会は変わらない。何かできることがあれば」と入会しています。

高市政権が数の力で暴走し、国際法違反のイラク攻撃も批判せず、改憲への危機感が高まる中、黙っていてもダメと国会前の緊急アクションでは1000人、36

この春、「出会いに行く」仲間づくりを

えていた姿に励まされた」とのコメントがSNS上で拡散され、話題になりました。日本版「女性の休日」アクション(6~8日)では、全国370カ所、9700人以上が声をあげ、家事・仕事・介

どの班も班会や小組で新婦人しんぶんを使って憲法カフェ・タイムをもち、「外に向かつて声を上げよう」「仲間を増やして戦争させない」と、チラシも持って、行動へとつながっていきましよう。

「安心して話せる場がここにありよ」「一緒に行動しよう」と、新婦人を知らせ、仲間を迎えましよう。

どの班も班会や小組で新婦人しんぶんを使って憲法カフェ・タイムをもち、「外に向かつて声を上げよう」「仲間を増やして戦争させない」と、チラシも持って、行動へとつながっていきましよう。